

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和4年6月29日
#健康管理士 村山 章

毎週日曜日の読売新聞に掲載される「あすへの考」に、編集委員室の大塚隆一氏が書かれた「なるほど」と思うエッセイが載っていました。国連緊急特別総会で3月2日に採択された、ウクライナ侵攻に対するロシア非難決議は国連加盟国193か国の約73%にあたる141か国が賛成したそうです。棄権が35か国、反対5か国（ロシア、北朝鮮他）、無投票12か国という内訳でした。賛成国の人口は全体の43%を占めますが、中国とインドを含む棄権国の人口は全体の51%にまで達するとか。また、賛成国のうち本格的な制裁にまで踏み切ったのは20か国程度だったようです。国連総会決議は、法的な拘束力がなく道義上の圧力をかけることしかできません。それでも多くの多国籍企業がロシアから撤退した訳ですから、それなりの効果はあったと言えるかもしれません。

ロシアの国力は相対的に衰退が続いていますが、核戦力だけは米国と並ぶ超大国の地位を保っています。国力の低下に反比例して核への依存が高まり、弱さゆえの怖さをさらけ出すのが一番の問題点のようです。大塚氏がおっしゃるように、一方的な武力行使をためらわない大国が今も存在する現実、希望的観測や過度の理想論の危うさ、自国を守る気概が発する力など、本当にさまざまな問題を考えさせられましたね。

日本では民主主義、リベラル自由主義は当たり前ですが、国連加盟国193か国の内情をのぞくと国によって立場はまちまちのようです。グローバル化が著しい現代世界はどう進んでいくのでしょうか。

日本の軍事予算も増えていく傾向が避けられないようです。かろうじて先進国になることができましたが、日本は唯一の被爆国です。世界から一人でも多くの人を広島、長崎に招待し戦争の悲惨さ、愚かさを知ってもらうことが被爆国としての責任でもあるのではないのでしょうか。第三次世界大戦勃発の可能性すらある今、地道な努力がますます大切になると考えます。